

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	心・技・体の調和した、スポーツ融合型教育プログラム		
法人名	学校法人 宮崎総合学院		
学校名	宮崎情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 川越 宏樹	担当者 連絡先	岩村聡志 TEL 0985-22-1030
<p>1. 事業の概要</p> <p>宮崎のすばらしいスポーツ環境を求めて沢山のスポーツ愛好者が宮崎にやってくる。しかし、その一部がフリーター化しマナーと共に新しい問題を提起している。一方ではサーフィンなどのマリンスポーツが中学校や高等学校の授業に取り入れられる等、スポーツとしての認知も高まってきている。この機に彼らに心・技・体の調和した教育プログラムを実践することにより、スポーツと勉学を融合させた新しい若者の再チャレンジを支援するプログラムを構築することを目的として、今回の事業を実施した。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>今回の事業を推進するに当たり、専修学校を活用した再チャレンジ支援推進という大前提のもとに、それを支える「職業教育」を「キャリアカウンセリング」・「専門教育」・「スポーツ教育」の3つの領域から捉え、さらに各領域を【心】・【技】・【体】の概念として位置付けることで、『心・技・体の調和した、スポーツ融合型教育プログラム』における教育プログラムを開発した。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>今回の事業においては、  職業教育 = キャリアカウンセリング領域【心】 + 専門教育領域【技】 + スポーツ教育領域【体】  と定義し、さらに各領域について以下のように展開した。  (1) キャリアカウンセリング領域【心】  専門学校を卒業後、定職に就いてなおかつスポーツも続ける道を可能にするために、キャリアカウンセラーによる就業意欲の促進やコミュニケーション能力の養成を踏まえたカウンセリングを行い、職業観育成の為の職業教育も併せて実施し、新しい進路を提供するためスポーツ&amp;スタディのテーマでの若者支援のプログラムを構築した。  (2) 専門教育領域【技】  学校教育法における専修学校教育の目的(第82条の2)の趣旨に鑑み、「職業もしくは实际生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図ること」を目的としたプログラムを構築するための具体的な対象分野(コース)として、介護福祉系コース、情報系コース、ビジネス系コースの3つについて、具体的なカリキュラムを開発した。  (3) スポーツ教育領域【体】  スポーツランド先進県としての特色を最大限に生かすべく、スポーツのカテゴリーの中からマリンスポーツ、就中サーフィン競技及び関連分野についての展開を試み、具体的かつ実践的なカリキュラムを開発した。  以上の事業展開により、今回の「心・技・体の調和した、スポーツ融合型教育プログラム」について、専修学校の教育機能を活用した若者の再チャレンジ支援という観点からの、若年者の職業能力向上、長期就業の促進という目標に向けての、サンプリングカリキュラムの作成という点で一定の成果が得られたのではないかとと思う。今後は、全国の専修学校教育に携わられている方々が、今回の得られた成果に現場での教育実践によるさらなる検証・確認作業及びフィードバックを重ねることにより、卒業後の早期離職防止並びに社会人としての適正な職業観の醸成に努めていただくことに、些かなりとも寄与できることを願っている次第である。</p> <p>③今後の活用</p> <p>今回の事業実施に伴う教育プログラムの開発及び検証の過程を通して、若者の再チャレンジ支援プログラムが設定された背景にある7・5・3現象、いわゆる卒業後3年以内の離職率の割合が、中卒7割、高卒5割、大卒3割という現状に対する認識を再確認させられたのは、【心】の領域であるキャリアカウンセリングにおいてであった。従って、今後の活用という観点に立つならば、専門学校教育の現場において、就業意欲の促進、コミュニケーション能力の養成、適正な職業観の育成を目的とした、さらなる教育実践に資するために、得られた成果を活用していきたい。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>今後の課題としては、③でも触れたように、若者の再チャレンジ支援プログラムが設定された背景にある7・5・3現象、いわゆる卒業後3年以内の離職率の割合が、中卒7割、高卒5割、大卒3割という現状を改善するために、専門学校教育の現場において、何をなし得るかということである。結論的に敷衍させていただくならば、離職という卒業後の事柄であったとしても、帰結するところはフィードバックする形での在学中における、今回、【心】の領域で位置付けたキャリアカウンセリング教育の大切さである。得られた成果にさらなる検討及び改善を加え、キャリアカウンセリングをベースとした職業教育を実践することにより、早期離職の防止に繋げていきたい。</p>			

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①調査分析

調査分析分科会においては、本事業実施に関わる全過程に係る調査分析を行ったわけであるが、特に若者の再チャレンジ支援という事業の趣旨に沿うべく、若者が好きなスポーツを続けながら安定した職業に就くための「心・技・体の調和した、スポーツ融合型教育プログラム」という観点からのアンケート調査を実施した。概要は以下の通りである。

<アンケート調査①>

- ・調査対象者:サーフィン競技愛好者
- ・調査実施期間:平成19年11月中旬～12月中旬
- ・調査方法:宮崎県サーフィン連盟、和歌山県サーフィン連盟、九州管内NSA協力店、いい波ドットコム(Web)、その他関係者に対し、原則として郵送にて実施した。
- ・調査結果及び分析の内容については、別添「報告書」に詳述してある。

<アンケート調査②>

- ・調査対象者:サッカー、野球競技愛好者
- ・調査実施期間:平成19年11月中旬～12月中旬
- ・調査方法:宮崎県サッカーリーグ登録クラブ、宮崎地区軟式野球連盟所属チーム、その他関係者に対し、原則として郵送にて実施した。
- ・調査結果及び分析の内容については、別添「報告書」に詳述してある。

#### ②支援プログラム開発

支援プログラム開発分科会においては、スポーツ領域(特にマリンスポーツとしてのサーフィン)と、専門教育領域の融合した教育を、専門学校における職業教育を通して各種資格・技能を取得し、さらにキャリアカウンセリング領域におけるキャリア形成教育を加味した教育プログラムの開発を目的とした。具体的には、職業教育 = キャリアカウンセリング領域【心】 + 専門教育領域【技】 + スポーツ教育領域【体】と定義し、さらに各領域について実践的なカリキュラム展開を可能とする方向でのプログラムを開発した。

#### ③カリキュラム作成

カリキュラム作成分科会では、調査分析・支援プログラム開発の両分科会の流れを受けて、専門学校の特性を活かした教育システムの中で、「心・技・体の調和した、スポーツ融合型教育プログラム」の趣旨に沿ったカリキュラムの編成を目指した。今回の事業においては、大前提である専修学校を活用した再チャレンジ支援推進というテーマを支える、「職業教育」を「キャリアカウンセリング」・「専門教育」・「スポーツ教育」の3つの領域から捉え、さらに各領域を「心」・「技」・「体」の概念として位置付けることで、『心・技・体の調和した、スポーツ融合型教育プログラム』における実践的なカリキュラムを構築した。各領域における具体的な展開の概略は以下の通りである。

(1)キャリアカウンセリング領域【心】

キャリアカウンセラーによる就業意欲の促進やコミュニケーション能力の養成を通じた職業観育成を目指した、若者支援のプログラムとしてのカリキュラムを開発した。

(2)専門教育領域【技】

学校教育法における専修学校教育の目的に鑑み、実務に必要な能力の育成及び資格の取得を目指したカリキュラムを構築した。具体的な対象分野(コース)としては、介護福祉系コース、情報系コース、ビジネス系コースの3つについて、具体的なカリキュラムを開発した。

(3)スポーツ教育領域【体】

スポーツの持つ特性や効用を活かした、具体的かつ実践的なカリキュラムを開発した。

なお、カリキュラムの詳細等については、報告書を参照されたい。

#### ④実証講座

○趣旨: 今回の事業の集大成としてのスポーツ融合型教育プログラムを実践的に展開すべく、キャリアカウンセリング【心】・専門教育【技】・スポーツ教育【体】の各領域について、成案を得たカリキュラムの一部を使用した実証講座を実施することにより、本プログラムの実効性を検証しようとするものである。

○受講対象者の属性: 宮崎情報ビジネス専門学校 情報システム科1年次生10名、性別全員男性で、年齢構成は18歳1名・19歳9名

○実施期間: 平成20年2月18日(月)～2月20日(水)

なお、実証講座に使用したテキストや受講生の感想を含む事前及び事後のアンケート等、詳細については、報告書に記載してある。